j0343857[1]

教材研究ノート№2-A-10

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・問題場面から演算決定することができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・1年で，繰り上がり，繰り下がりのない3つの数の加減について，式に表したりブロックを操作したりしている。

○共同追究での新たな見方・考え方

・加減が混じった場面で，まとめて考える方法を用いる。

○新たな見方・考え方を支える学習

・前時まで，加法の場面で，順にたす方法とまとめてたす方法の2通りの方法で問題解決している。

≪学習問題≫

さるが12ひきいました。そこへ6ひきやってきました。そのあと4ひきかえりました。

さるはなんびきになりましたか。

≪学習問題≫

j0397364[1]

主眼

授業計画･実施記録

②見通し：たし算とひき算の両方が入っていて，まとめにくい。

→問題文の通りに，順に計算していけばよい。

→まとめて考える方法でも求められそうだ。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題：問題場面をブロックに表し，順に考えたりまとめて考えたりして，さるの数の求め方を説明しよう。

③個人追究：式にかいたりブロックを使ったりして追究する。

④共同追究前半（学習問題の解決）

「順に考えるやり方を，式とブロックで発表しよう。」

→「『6ぴきやってきた』は，『12＋6』で18ぴきになる。その後『4ひきかえった』は『18－4』で14ひきになる。」

「まとめて考えるやり方を，式とブロックで発表しよう。」

→「『6ぴきやってきて4ひきかえった』から，はじめより2ひきふえたことになり，『12＋2』で14ひきになる。」

18－4＝14

はじめ

12ひき

● ● ● ●

かえった

● ● ● ● ● ●

● ● ● ●

12＋2＝14

● ● ● ● ● ●

やってきた

12＋6＝18

④共同追究後半（思考を深める）

「まとめて考えるやり方で，問題を書き換えてみよう。」

そこへ6ぴきやってきました。

そのあと4ひきかえりました。

そこへ（　）ひき

（　　　）ました。

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・たし算とひき算が混じっている問題でも，順に考えるやり方とまとめて考えるやり方の両方のやり方で求めることができた。

・まとめて考えるやり方で，場面を簡単に置き換えることができる。

⑥定着･活用問題

えんぴつのキャップを23こもっていました。友だちに7こもらいました。あとで，おとうとに3こあげました。いまなんこありますか。2とおりの方法でもとめよう。

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・前時までの加法の場面では，まとめて考える方法で容易に演算決定することができたが，本時は，引き続いて起きる事象に関わる数量の大小によって演算が異なるところに抵抗をもつ児童が多いと予想される。したがって，形式的な操作にならないように，問題場面に照らして式を読んだり，ブロック操作で確認したりする活動を丁寧に行わせたい。

【板書計画】